

島根県

出猟記録の分析結果の報告(Ⅳ)

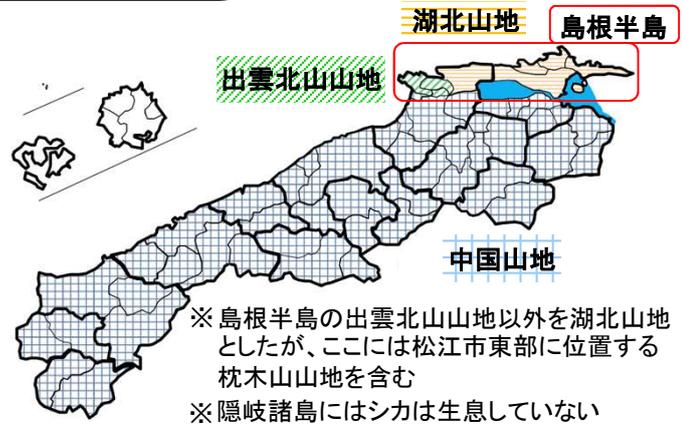
—ニホンジカ編—



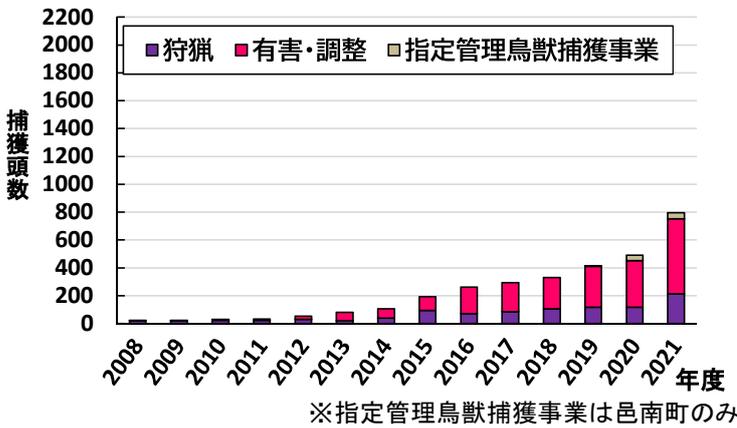
—島根県の狩猟者のみなさまへ—

毎年、「出猟記録」へご協力をいただき、ありがとうございます。この分析によって、ニホンジカ(以下、シカ)の分布域や生息密度を把握することができました。

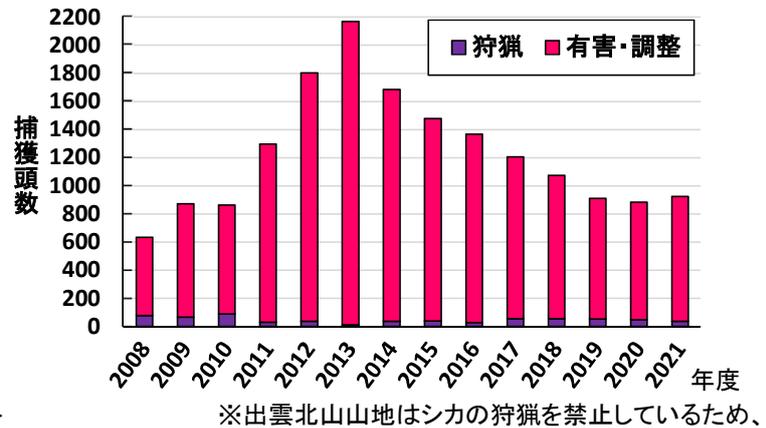
2020年の報告(Ⅲ)以後の分析結果(Ⅳ)の一部を紹介します。



県内における捕獲頭数の推移



中国山地におけるシカの捕獲数の推移



島根半島におけるシカの捕獲数の推移

中国山地においてシカの捕獲数が増加しており、2021年度の捕獲数は、狩猟214頭と有害(捕獲事業含む)582頭の合計796頭でした。これは、2011年の捕獲数32頭の約25倍に相当します。また、狩猟による捕獲のほとんどが脚くりわなによる捕獲でした。

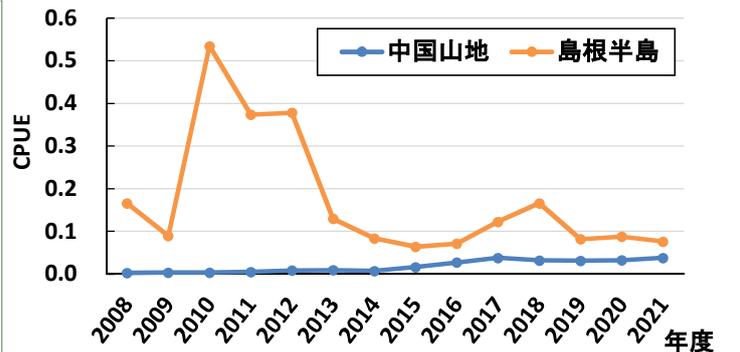
島根半島における捕獲数は、2013年には2000頭を超えていましたが、その後減少し、近年は1000頭前後で推移しています。そのほとんどが有害捕獲です。2021年度の捕獲数は、狩猟36頭と有害889頭の合計925頭でした。

捕獲効率(CPUE)による生息数の動向

狩猟期にシカ猟、またはイノシシ猟を行った狩猟者を対象に、脚くりわなでの捕獲効率(CPUE: 100台1日当たりの捕獲数)を算出しました。

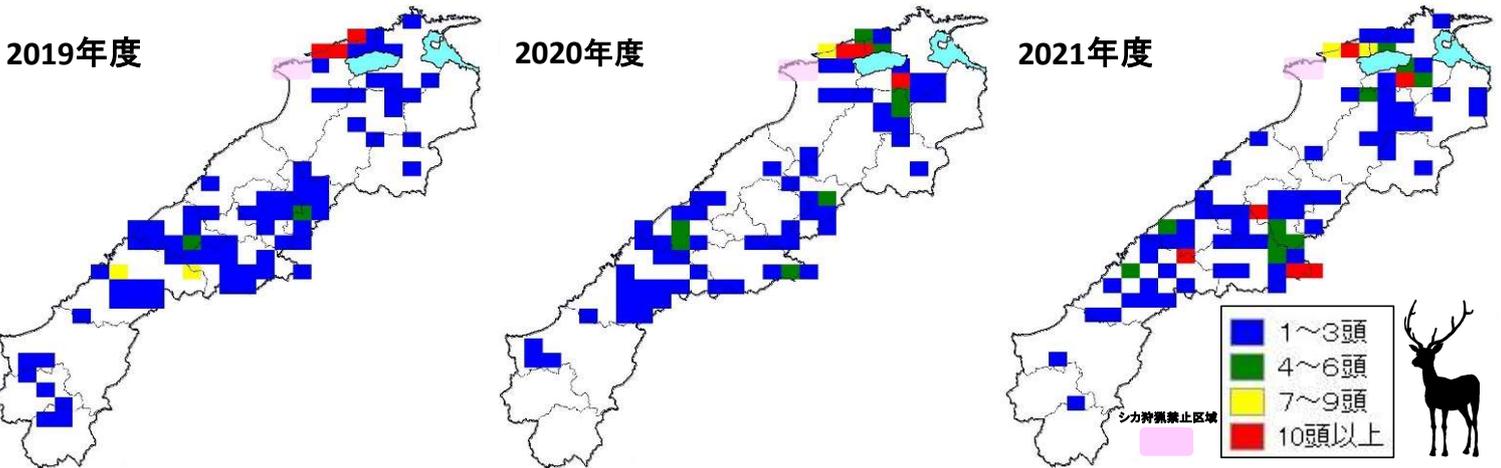
島根半島(湖北山地)においては、ピーク時から低下し、近年は0.1前後で推移しています。このことから、シカの近年の生息数は横ばい傾向で推移していると考えられます。

中国山地においては、捕獲効率が漸増しており、生息数は増加傾向であると考えられます。2021年度における市町別の捕獲効率を見ると、3町で0.1を超えて高い(邑南町:0.22、飯南町:0.16、川本町:0.14)ことから、特にシカが多く生息していると推測されます。



捕獲効率(CPUE)の推移

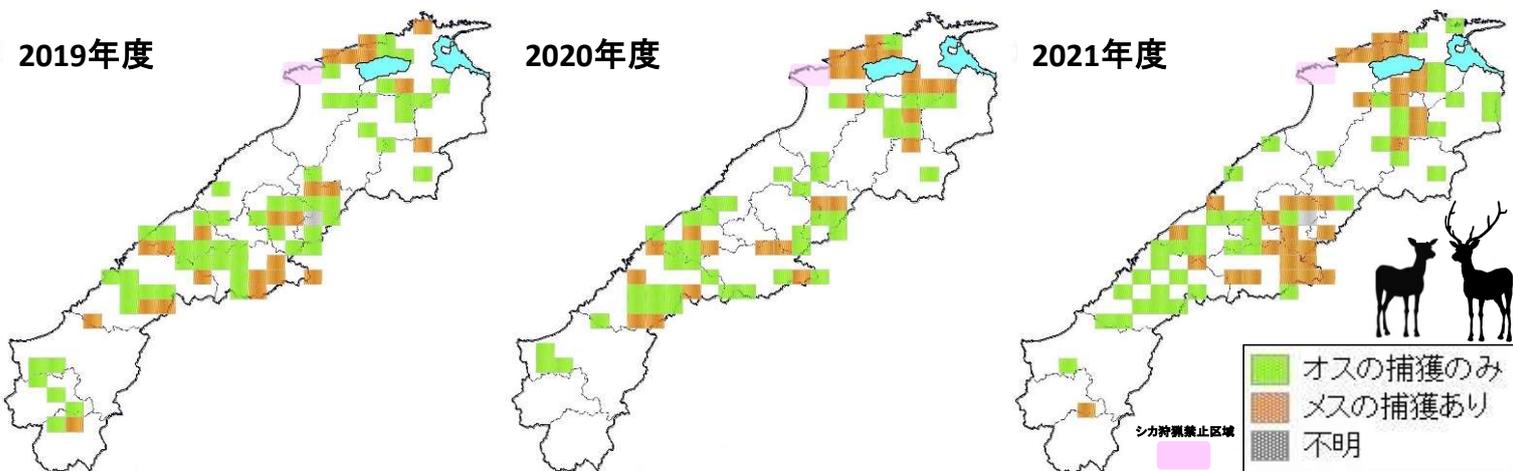
狩猟における捕獲場所と捕獲頭数



シカの捕獲場所を見ると、中国山地、島根半島ともに、ほぼ全域にシカが分布していると考えられます。中国山地においては、特に邑南町や美郷町、飯南町、浜田市などの広島県境の市町で多く捕獲されています。このことから、広島県に生息するシカが県内に分布を拡大していると考えられます。また、宍道湖以南の松江市、雲南市でも捕獲が増加していることから、今後も状況を注視していく必要があります。

島根半島においては、特に湖北山地の出雲市側で多く捕獲されており、出雲北山山地に生息するシカが湖北山地に分布を拡大していると考えられます。

狩猟における雌雄別の捕獲場所



シカが新しく分布を拡大させる地域では、まず先にオスが確認され、その後にメスが確認されるようになります。そのため、メスが捕獲されるようになると、その地域はシカが定着し、繁殖が行われていると判断できます。

メスの捕獲位置から、中国山地では邑南町、美郷町、飯南町、浜田市などの広島県境の市町や、宍道湖以南の松江市や雲南市において、また島根半島では湖北山地の出雲市側において、すでにメスが定着し、繁殖していると考えられます。

今後のニホンジカ対策について

現在島根県では、これまでシカが多く生息していた島根半島に加えて、広島県境に接する市町を中心とした中国山地においてもシカの生息が拡大しています。このうち、邑南町ではシカによる林業被害や農業被害が確認されており、今後はシカ対策に有効な被害防止対策を講じていく必要があります。また、シカは繁殖能力が高くて増えやすい動物であるため、捕獲対策にも注力していく必要があります。そして、今後のシカの生息動向を知るためには、**皆様からのシカの捕獲や目撃情報が重要なデータ**となります。

ニホンジカ対策に役立てますので、
今後も出猟記録へのご協力をお願いします。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

